

(様式2)

令和7年度 授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	印西市立船穂中学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和6年度3年生の課題は「話し合い活動の充実」と「社会貢献の意識を高める」、令和7年度3年生の課題は「自分で考え、自分から取り組む」、「社会貢献の意識を高める」ことである。これらのことから、主体的に考える姿勢と学習したことを社会生活と関連付ける力を養うことが課題である。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 課題解決学習において、あらかじめ解決に必要な知識・技能を習得できる学習過程を設定すれば、指導者は、課題解決に必要な知識・技能は何かということを明確にもつことができ、生徒は、知識・技能を働かせて課題解決ができるであろう。
- 単元で身に付けさせたい力（ゴール）を設定して生徒に示し、振り返りをすれば身に付けた力を生活の場面で生かせるようになるだろう。

3. 具体的な実践

- 生徒個々の興味関心が生きる課題にする。
- 単元ゴールを提示して学習の見通しをもてるようにする。
- 生徒がつまずきそうな場面を想定してワークシートを作成する。
- 学んだことや学び方について、振り返りをして次時につなげる。

4. 成果

- 新しい知識を獲得できると思考が深まり、問いが出てくるので、積極的に相談する姿が見られた。
- 見通しをもった単元計画をたてることにより、生徒が学習する時間を確保できる。
- 生徒個々の興味関心が生かせるため、意欲的になる。
- ゴールの共有ができていたので、様々なパターンで生徒が自由に設計できる。
- 目的が明確なので焦点化して生徒個々の力を伸ばせる。
- 振り返りをするとう生徒自身が自分の学習状況を客観的に見られる。

◆担当指導主事から

- 生徒が当事者意識を持てる題材を扱い、意欲や興味を喚起することができた。
- 交流の場面では、話し合いの相手を複数回変えて様々な意見を交流することで、自己を客観的に見つめたり、多様な意見に触れたりすることができた。
- 振り返りの場面では、自身の学びや今後に生かしたいことなどを短文で簡潔にまとめる活動によって、学習を深め、次時の見通しをもつことができた。